

文京区災害廃棄物処理計画の修正（案）について

1 概要

文京区災害廃棄物処理計画について、都による被害想定の見直しや文京区地域防災計画（令和6年度修正）の内容等を踏まえ、修正案を作成したので報告する。

2 主な修正内容

別紙1のとおり

3 文京区災害廃棄物処理計画（令和7年3月修正）（案）

別紙2のとおり

4 普及・啓発

復興に大きな影響を及ぼす災害廃棄物の状況を踏まえ、効果的な災害廃棄物対策が講じられるよう、引き続き様々な機会を通じ、庁内の関係部署とも連携しながら、区民や災害廃棄物処理を担う職員に対し、本計画に関する知識等の普及・啓発を徹底する。

5 今後のスケジュール（予定）

令和7年2月	議会報告
3月	公表

文京区災害廃棄物処理計画の主な修正内容

1 被害想定の修正

令和4年5月に公表された都の被害想定のうち、令和6年9月に修正された文京区地域防災計画との整合性を図り、本区において被害が最大となる「都心南部直下地震」及び「多摩東部直下地震」を前提条件とし、いずれのケースにも対応する計画とした。

表1 文京区地域防災計画及び東京都地域防災計画に基づく被害想定

区分		前回の被害想定		新たな被害想定		
		東京湾北部地震		都心南部直下地震	多摩東部直下地震	
避難所避難者数		40,213人		26,107人	26,775人	
断水率		38.5%		25.3%	27.2%	
建物被害	建物全壊		3,602棟		468棟	512棟
	ゆれ	木造	3,141棟		355棟	392棟
		非木造	402棟		89棟	102棟
	液状化	木造	4棟		18棟	14棟
		非木造	1棟		5棟	4棟
	傾斜地	木造	48棟		0棟	0棟
		非木造	6棟		0棟	0棟
	建物全壊木造合計		3,193棟		374棟	406棟
	建物全壊非木造合計		409棟		94棟	106棟
	建物半壊		7,307棟		2,461棟	2,519棟
	ゆれ	木造	5,816棟		1,925棟	1,976棟
		非木造	1,112棟		405棟	446棟
	液状化	木造	248棟		107棟	78棟
		非木造	48棟		23棟	17棟
傾斜地	木造	70棟		1棟	1棟	
	非木造	13棟		0棟	0棟	
建物半壊木造合計		6,134棟		2,033棟	2,055棟	
建物半壊非木造合計		1,173棟		428棟	464棟	
火災	焼失（倒壊建物を含む。）	木造	2,443棟		137棟	127棟
	焼失（倒壊建物を含まない。）	木造	2,259棟		135棟	125棟

※ 新たな被害想定のうち、被害が大きい項目に網掛けをしている。

※ 液状化及び急傾斜地崩壊における木造と非木造の比率は、特別区災害廃棄物処理対策ガイドライン（以下「特別区ガイドライン」という。）に従い、区地域防災計画上の被害想定数に「ゆれ」による木造・非木造の比率を掛け合わせて算出した。

※ 焼失建物は、特別区ガイドラインに従い、全て木造として扱う。

※ 端数処理の関係で、合計値が合わないことがある。

2 災害廃棄物発生量推計の修正

1の被害想定に基づき試算した結果、区内の災害廃棄物（がれき）発生量は、最大で約30万トンとなった。これは、前回の被害想定において試算された約103万トンと比較すると、住宅の耐震化や不燃化などの取組により、約70万トン(71%)の減となった。

表2 被害想定に基づく災害廃棄物発生量推計

廃棄物の種類	概要	見直し後の推計量（地震）		
		東京湾北部	都心南部直下	多摩東部直下
一般廃棄物	がれき	1,034,844 t	277,085 t	298,092 t
	片付けごみ	8,226 t	2,003 t	2,084 t
	避難所ごみ	28.8 t/日	18.0 t/日	18.4 t/日
	し尿	129,467 ℓ/日 (99t/日)	88,828 ℓ/日 (48.5t/日)	93,148 ℓ/日 (52.9t/日)

※ 推計量(地震)は、「特別区ガイドライン」等に基づき推計

※ がれきについて、風水害の場合は、被害家屋2t/棟で推計する。

3 一次仮置場の必要面積の修正

2の災害廃棄物発生量推計に基づき試算した結果、一次仮置場の必要面積は、95,837㎡となった。前回の災害廃棄物推計量の試算と比較し、246,932㎡(72%)の減となった。

表3 一次仮置場の必要面積

廃棄物の種類	見直し後の推計量（地震）		
	東京湾北部	都心南部直下	多摩東部直下
一次仮置場必要面積	342,769 ㎡	89,508 ㎡	95,837 ㎡